

(公財)農学会・日本農学アカデミー共同開催公開シンポジウム
「陸と海の豊かさを守り育てるー持続可能な発展を目指して」

持続可能な自然共生社会の実現に向けて

A central graphic featuring a globe of the Earth. The top half of the globe is green, representing land, and is topped with a lush green tree. The bottom half is blue, representing water. A snail is shown crawling on the right side of the globe. The background is a bright blue sky with a rainbow, a sun, and several bubbles.

武内和彦

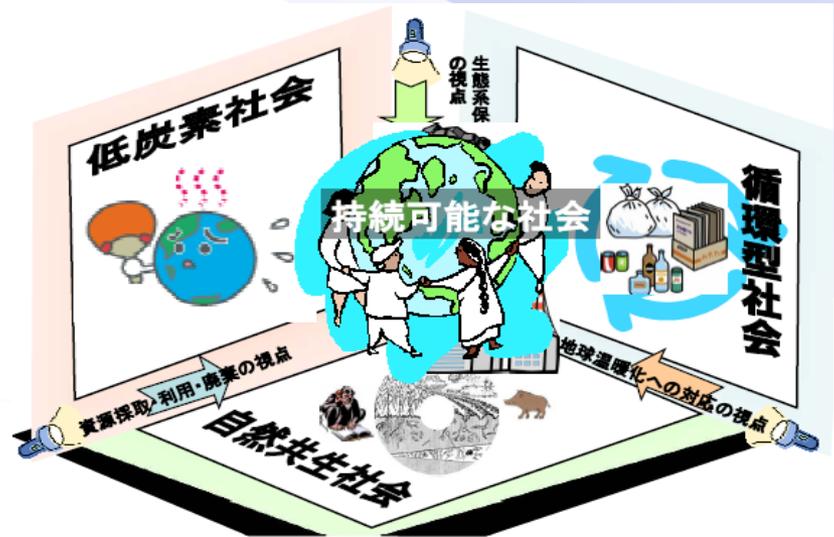
東京大学 サステナビリティ学
連携研究機構 特任教授

2018年3月10日(土) 13:00~17:30 東京大学農学部弥生講堂

21世紀環境立国戦略と自然共生社会



- ◆ 2007年6月「**21世紀環境立国戦略**」が第一次安倍内閣で閣議決定される
- ◆ 地球温暖化の危機、資源の浪費による危機、生態系の危機の深刻化を認識
- ◆ **低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の統合**による「**持続可能な社会**」
- ◆ 自然との共生を図る智慧と伝統を現代に活かした美しい国づくりを提唱
- ◆ 「**SATOYAMAイニシアティブ**」を世界に提案し、自然共生社会実現を目指す



2007年当初の3社会像の統合 (環境省)



生物多様性条約COP10 と SATOYAMAイニシアティブ

- ◆ 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された「愛知目標」の長期目標は「**自然と共生する世界の実現**」となる
- ◆ 東洋的自然観に立つ自然共生社会の概念には、先進国の批判もあったが、アフリカなど多くの**開発途上国が積極的に支持**
- ◆ COP10では環境省と国連大学が提唱したSATOYAMAイニシアティブが採択され、**国際パートナーシップ(IPS)**が創設される
- ◆ SATOYAMAイニシアティブは、生物多様性条約の第二の目的である「**生物資源の持続的利用**」の理念を具体化するもの

IPSI設立セレモニー (愛知県名古屋市)



IPSI16 (カンボジア・シェムリアップ)



IPSI2 (ケニア・ナイロビのICRAFにて)



IPSI3 (インド・ハイデラバード)



IPSI4 (福井県)

持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献



- ◆ 人間一人一人に焦点をあて、レジリエント・包括的・持続可能な「質の高い成長」の実現を目指す、経済・社会・環境の均衡の取れた「持続可能な開発」達成のための国際目標。(目標年:2030年)
- ◆ 2015年9月の国連総会で満場一致で採択された世界全体で取り組む目標
- ◆ SATOYAMAイニシアティブの推進は多くの目標に貢献



(国連広報センター作成)

 直接的に貢献するもの

 関係が深いもの

伝統的な農業システムの再評価



プランテーション

- 単一作物
- 大量生産
- 均質なランドスケープ
- 低価格

茶畑(雲南省)



Photo L. Liang

アグロフォレストリー

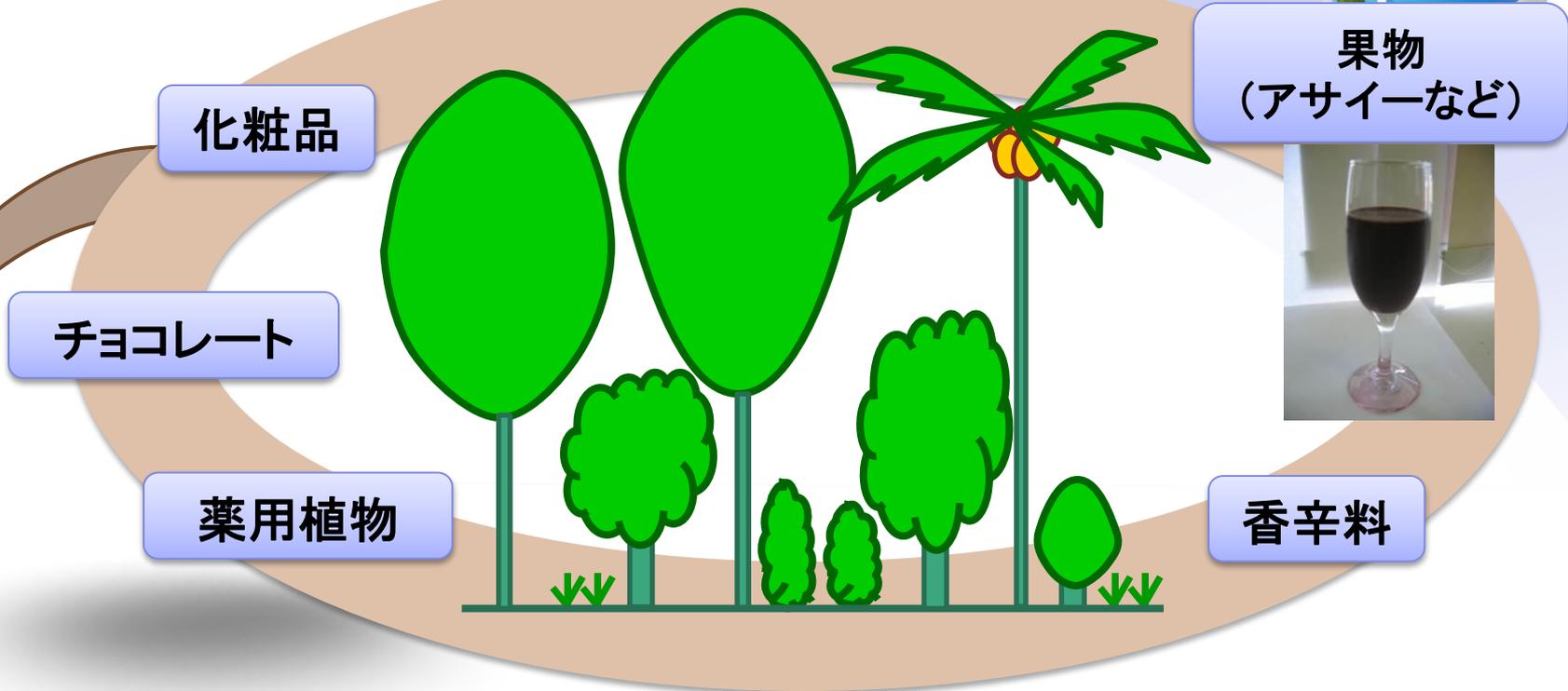
- 多様な作物
- 少量生産
- モザイクランドスケープ
- 付加価値

茶の森(雲南省)



Photo L. Liang

アグロフォレストリーに見る新しいビジネスモデル



企業間の連携により、多様な生産物のマーケットへのアクセスの確保



商品の付加価値を高める

日本初の世界農業遺産



「トキと共生する佐渡の里山」(新潟県、佐渡島)

■ 特徴

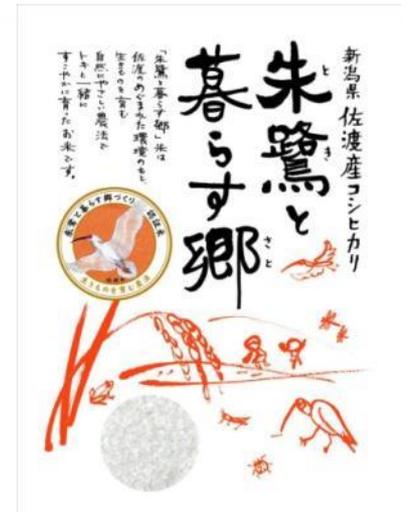
- 金山の歴史が生み出した棚田などトキの餌場となる水田で、低農薬栽培、冬期湛水など「**生きものを育む農法**」とその認証制度を推進
- 能、鬼太鼓などの農村文化を継承し、佐渡独特の自然、風景、文化と生物多様性を保全



佐渡島の水田とトキ



36年ぶりの自然界でのひな誕生



「朱鷺と暮らす郷」認証米

■ 地域：新潟県佐渡市

■ 面積：85,500ha

里山・里海モデルとしての佐渡島



伝統的農業

(ふゆみずたんぼ、江など)

生き物を育む農業



観光

草地

水田

少量生産



トキ

©MOEJ

生物多様性保全

(里山管理)

森林

炭

多様な生産物

認証農産物



果物
(おけさ柿)

畑

水産物

南蛮えび

南蛮えび



水産物

ブリ

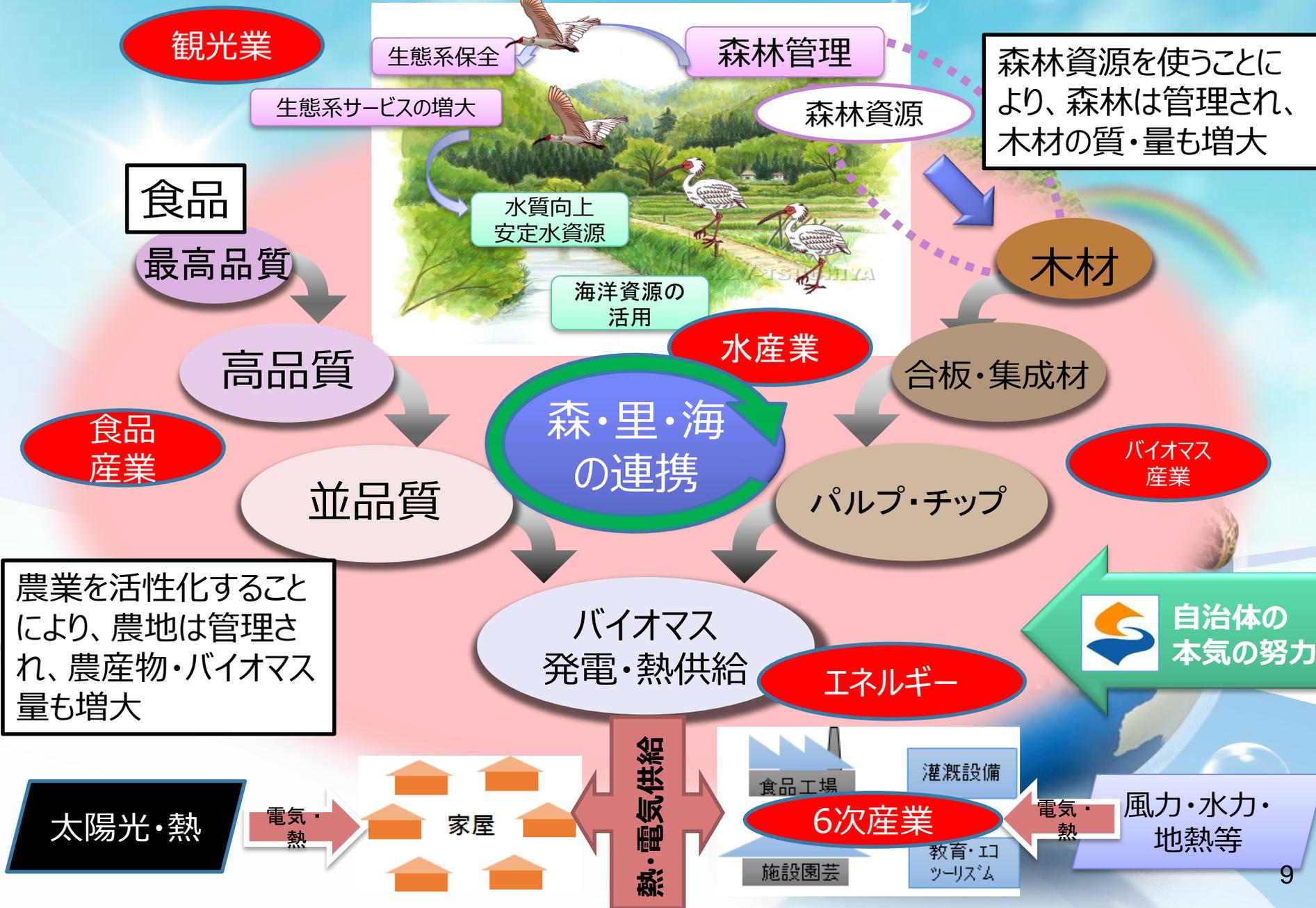
「朱鷺と暮らす郷づくり」認証米

里山里海の再活性化

- ◆ 生物多様性を育む伝統的農業で農産物に付加価値をつける
- ◆ 農業、林業、水産業、観光業などの連携を強化し、佐渡を丸ごとブランド化する
- ◆ 自然との共生に関する消費者の意識向上を図りながら、新しい農業のあり方を目指す



佐渡島における自然共生社会実現のための産業振興



農業遺産とSDGsの関係

(資料提供: 国連大学)



農業遺産の認定基準とSDGs

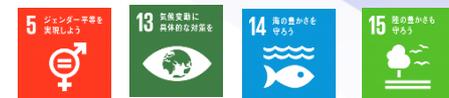
① 食料および生計の保証



② 農業の生物多様性



③ 知識システム



④ 文化、価値観、社会組織



⑤ ランドスケープおよびシー スケープ

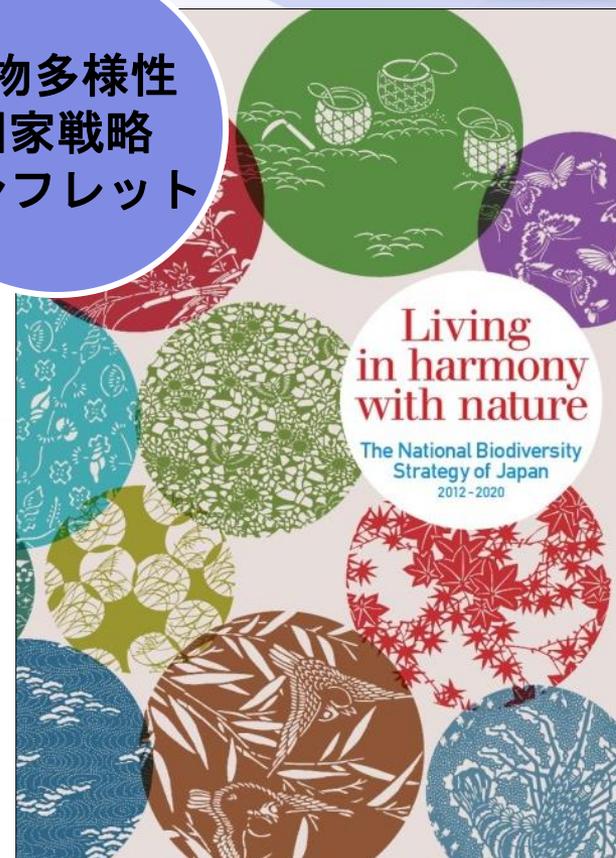


東日本大震災の発生と 生物多様性国家戦略2012-2020の策定



- ◆ CBD/COP10における**愛知目標**の採択を踏まえて、日本の**生物多様性国家戦略**の見直しに着手
- ◆ **東日本大震災の発生**は、生物多様性国家戦略の見直しにも大きな影響をもたらす
- ◆ **恵みであると同時に脅威でもある日本の自然**に対し、感謝と畏敬の心で接することを認識
- ◆ 国家戦略のサブタイトルを「**豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ**」とする
- ◆ 2012年9月に閣議決定され、翌10月にインドのハイデラバードで開催されたCBD/COP11で公表

生物多様性
国家戦略
パンフレット



里山と里海の連環を生かした 地域再生



- ◆ 被災地の多くは、典型的な里山と里海の連なりからなる地域
- ◆ **森里川海の連環**が、物質循環を通じて自然からの恵みをもたらす
- ◆ 里山と里海の関連性を再構築する農山漁村づくりが求められる
- ◆ **安全・安心な地域づくり**に際しても自然環境や景観への配慮が必要
- ◆ **ランドスケープ再生**は、**グリーン・ブルー・ツーリズム**振興にも貢献



里山と里海

三陸復興国立公園とグリーン復興プロジェクト



<基本理念>

三陸復興国立公園の 創設を核とした グリーン復興

-森里川海が育む自然とともに歩む復興-

<基本方針>

1. 自然の恵みを活用する
2. 自然の脅威を学ぶ
3. 森里川海の
つながりを強める

グリーン復興プロジェクト

- ① 三陸復興国立公園の創設(自然公園の再編成)
- ② **里山・里海フィールドミュージアムと施設整備**
- ③ 地域の宝を活かした自然を深く楽しむ旅(復興エコツーリズム)
- ④ **南北につなぎ交流を深める道(みちのく潮風トレイル)**
- ⑤ **森里川海のとつながりの再生**
- ⑥ 持続可能な社会を担う人づくり(ESD)の推進
- ⑦ 地震・津波による自然環境への影響の把握(自然環境モニタリング)



南三陸町における自然を活かした地域づくり



- ◆ 町境と分水嶺がほぼ一致。
- ◆ 山(森)では「南三陸杉」を生産
- ◆ 山から流れる河川は里を經由して志津川湾へ
- ◆ 湾内は古くからノリ、カキ、ワカメ、ホヤ等の養殖の漁場

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

町の魅力を発信
自然と人の物語
ツールやツアーなど
プログラムで発信



14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう

国際認証の取得

持続可能な経営で
誇りある仕事の
伝統を継承

3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い教育を みんなに
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	13 気候変動に 具体的な対策を
5 ジェンダー平等を 実現しよう	16 平和と公正を すべての人に

生業の創出

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

「Next Commons Lab 南三陸」WEBサイト等より作成

南三陸の魅力成形にして
外部と地域もつなぐ人づくり

森川海を繋ぐフィールドミュージアム



国立公園とその周辺部の里山・里海、集落地を含めた一定のまとまりをもつ地域をフィールドミュージアムとして位置づけ、エコツーリズムの推進や環境教育などを、面的、複合的に推進することで、地域の活性化に繋げる。

三陸復興国立公園フィールドミュージアム構想
～南三陸町戸倉地区イメージ図～



★拠点施設の役割

- ・自然体験プログラム受付
- ・森川海の繋がり解説
- ・自然環境の調査研究 等

森川海の連環を学ぶ(例)

- ・養殖体験を通じた、豊かな海を支える森・川についての自然学習
- ・サケの遡上・産卵観察により海川森の連続的な生態系について学習
- ・山の管理活動と、山の木材を用いたイカダづくり体験
- ・カヌーによる北上川下りで、森川海の繋がりを体験 等

※みちのく潮風トレイルとの連携や外国人もターゲットにし、地域の活性化へ繋げる

『森里川海のつながり』を感じられるエリアに

生態系を活かした防災・減災



- 2014年11月、シドニーで国際自然保護連合 (IUCN) 主催の第6回世界国立公園会議が開催される
- 日本はIUCNとの共催で「**国立公園をはじめとする保護区域が防災減災に果たす役割**」に関する討議をリード
- 森林や湿地などの**生態系が防災・減災に果たす役割**についての共通認識が得られる
- **東日本大震災後からの復興**においても、こうした生態系機能を活かしていくことが地域再生につながる
- 2015年3月14日～18日に仙台で開催される国連防災世界会議でも「**生態系を活用した防災・減災**」に関する国際イベントを開催



世界国立公園会議



国連防災世界会議

自然環境と調和した防災・減災

気仙沼大島(宮城県気仙沼市)



田中浜から高台のホテルへの避難路の整備

気仙沼大島の田中浜



- ◆ 観光資源である自然景観、水産業を支える渚の生態系を守る観点から、**大規模な防潮堤**に反対する地域も多い
- ◆ 国立公園の利用拠点では、砂浜から高台への**避難路の整備**や災害時にも一時的な避難施設として活用できるキャンプ場整備を進めている

SDGsの考え方を活用した 環境基本計画の見直し



第5次環境基本計画の策定作業を開始し、SDGsの活用を言及
中央環境審議会総合政策部会において審議

SDGs活用の視点

- 経済・社会のあらゆる面において環境的な配慮がなされる社会を目指すべき
- 施策の幅を広げることにより、SDGsをどのように活用するのかを示す計画とすべき
- SDGsのマルチベネフィット、複数の目標に対する統合的な解決、全員参加型、バックキャスト、という特徴に則した見直し
- 経済・社会に関する諸課題を環境面から解決するという新たなアプローチへの挑戦

第五次環境基本計画の方向性

中環審総政部会資料(2017.12)

目指すべきもの

1. 「**地域循環共生圏**」の創造。
(自立・分散型の社会、地域どうしの支え合い)
2. 「**世界の範となる日本**」の確立。
(①公害を克服した**歴史**、②高い**環境技術**、
③「もったいない」などの**循環**の精神や
自然と**共生**する伝統を有する我が国だからこそ
できることがある)
3. これらを通じた、真に持続可能な「**循環共生型社会**」(いわば「**環境・生命文明社会**」)の実現。



各地域がその特性を生かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて補完し支え合う

取り組むべきこと

1. SDGsの考え方を活用し、**環境・経済・社会の統合的向上を具体化**。
(環境政策を契機として、我が国が抱える**経済、地域、国際などの諸課題の同時解決**を図り、**中長期的な成長**につなげていくため、分野横断的な6つの重点戦略を設定)
2. あらゆる**関係者と連携**。
(環境・経済・社会の統合的向上を達成するためには、**経済・社会の関係者ともパートナーシップを充実・強化させることが必要**)
3. **地方部の地域資源を持続可能な形で最大限活用**し、**経済・社会活動を向上**。
(地方部の維持・発展にもフォーカス。**環境で地方を元気に!**)

第五次環境基本計画における 施策の展開の方向性

中環審総政部会資料(2017.12)



- 我が国が抱える環境・経済・社会の課題や国際的な潮流を踏まえ、**6つの重点戦略を設定**。
- **パートナーシップ**（各主体との連携）の下、環境・経済・社会の**統合的向上を具体化**。
- 社会システム・ライフスタイル・技術といったあらゆる「**イノベーションの創出**」を目指す。

6つの重点戦略の概要（検討中の骨子）

① 持続可能な生産と消費を実現するグリーンな 経済システムの構築

- **環境ビジネス**を我が国経済の牽引力となるよう育成
- **国内資源の最大限の活用**による国際収支の改善・産業競争力の強化
- **金融・税制**等を活用した経済システムのグリーン化



洋上風力発電施設
(H28環境白書より)

② 国土のストックとしての価値の向上

- 市街地のコンパクト化等、**持続可能で魅力あるまちづくり**
- 自然資本の維持等、**自然との共生を軸**とした国土の多様性の維持
- **自然環境が持つ多様な機能を活用**したレジリエンスの向上



土砂崩壊防備保安林
(環境省HPより)

③ 地域資源を活用した持続可能な地域づくり

- 地域資源の最大限の活用により**環境配慮型の投資・消費を活発化**
- 都市と農山漁村等、地域が相互に交流する**広域ネットワークづくり**



バイオマス発電所
(H29環境白書より)

④ 健康で心豊かな暮らしの実現

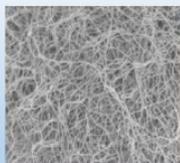
- 森里川海を中核とした人・自然がつながる**ライフスタイル・イノベーションの推進**
- 環境にやさしく健康で**質の高い生活への転換**
- 安全・安心な暮らしの基盤となる水・大気など**良好な環境の保全**



森里川海のつながり
(環境省HPより)

⑤ 持続可能性を支える技術の開発・普及

- 持続可能な社会の実現を支える**最先端技術の開発**
- **生物・自然の摂理**を応用する技術の開発
- **社会実装**の推進



セルロースナノファイバー
(H29環境白書より)

⑥ 国際貢献による我が国のリーダーシップの発揮と 戦略的パートナーシップの構築

- 国際的なルール作りへの**積極的関与・貢献**
- 「課題解決先進国」として海外における「持続可能な社会」の構築支援



日本の開発協力
(2016年版開発協力白書より)